

【事業実績】

横山大観でつながるミュージアム DX 事業

横山大観というキーワードでつながった美術館、団体が連携してミュージアム DX に取り組んだ

(1) 収蔵品データベースの作成を含む、博物館資料のデジタル・アーカイブ化を推進し、公開・発信する取組

●福井県立美術館、大田区立龍子記念館、横山大観記念館で連携し検討、文化庁の DX 戦略に関する理解を共有、各々のコレクションについての相互理解をオンラインや直接会議で共有し、収蔵品データベースの作成及び所蔵品のデジタル・アーカイブ化とその公開の方針等について検討



第1回検討会議(福井県立美術館)



実行委員会会議(福井県立美術館)



実行委員会会議(横山大観記念館)

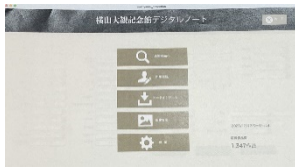


第2回検討会議(横山大観記念館)

佐藤検討委員「文化遺産オンラインは独自のシステムなので登録してもデータの改変があるとそれを修正しなくてはならない。自館以外のシステムに掲載する作業は大変なので皆さん参加してくれていませんので、本事業に期待します。」

平野検討委員「高精細のデジタルでの経験も必要ですが、次のステップとして実体験などを入れることでもっと魅力がわかるというところまでもっていかないといけないと思います」

●横山大観記念館所蔵品デジタルノート作成(1347件登録済/2024年2月27日現在)



実際に連携し相互検証の結果、当初想定の所蔵品データベースを構築する際に分類を統一するという事は、館ごとに所蔵品のタイプや展示施設が違うので不可能だった。システム構築及び登録は、所蔵品の登録は専門用語なども多数あり、入力確認及び学芸員等専門家による確認が必須であり想定より時間を要した。

●所蔵品のデジタル撮影



掛軸の撮影

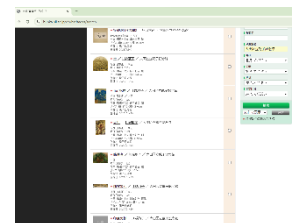
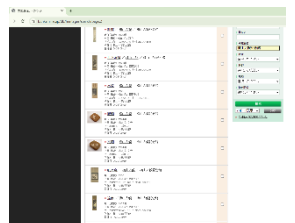
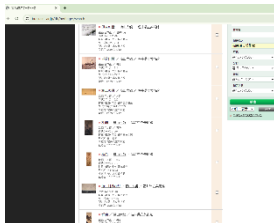


額・工芸品の撮影



大観作品は貴重であり、撮影スタジオに持ち出すと高額な保険料が必要な為、館内で撮影

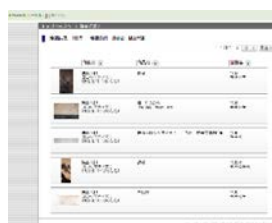
●文化遺産オンラインでの公開 (<https://bunka.nii.ac.jp/db/>)



登録公開状況(2月15日時点)

福井県立美術館 15件
大田区立龍子記念館 30件
横山大観記念館 103件

●HPでの公開



横山大観記念館
<https://taikan.tokyo/>
福井県立美術館
<http://artsearch.prif.fukui.jp/>

●学校と連携した発信活動

・文京区立湯島小学校授業(参加者57名) 令和6年1月19日



参加者の感想 事前勉強で見た VR 美術館がとても楽しかったです。大観さんの絵がきれいでもっと見たいと思いました。日本画を描くための材料を初めて見てうれしかったです。絵を描くことに興味が湧きました。もっと時間が欲しかったです。

・台東区忍岡小学校授業(参加者60名) 令和6年2月9日



参加者の感想 VR 美術館とは様子がちょっと違ったけど、見た絵があって感動しました。技術が発達しているのに、古いガラスは二度と作れないと聞いて驚きました。お庭の花のスケッチを初めて見ましたが、「これもネットで見れたら、あとで妹に教えられるのに」と思いました。

(2) 学芸員等の博物館専門職員等に対する博物館DXに関する人材育成・研修

●アメリカ先進事例調査研究研修



ボストン美術館(モース学芸員)



ハーバード美術館館(サンダース学芸員)

<研修内容>

- ・所蔵作品のデジタル化や公開におけるルールや配慮事項
- ・デジタル化が美術館の調査研究をどのように発展進化させているか
- ・日本画のデジタル化が文化財の継承に与える影響
- ・デジタル・アーカイブを活用した教育普及やプログラム
- ・デジタル・アーカイブの公開手法についてのメリット・デメリット
- ・著作権や法律に関して



マサチューセッツ大学(ウエストン教授)

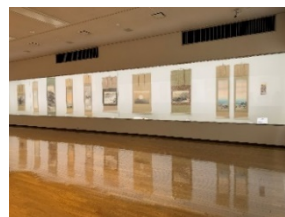


メトロポリタン美術館(ピアソン講師)

サンダース学芸員「デジタルデータは長期的な保守や管理にも予算が必要・デジタル化の重要な使命は芸術の保存と教育利用・日本の画像検索は統一してない為探しにくい」

モース学芸員「デジタル化はメタデータの整理等に予算・人員の確保が必要となるが、日本の美術館はデジタル化と公開に積極的になってほしい・日本は素晴らしい文化をもっているのだから、もっと海外に発信するべきで、それにはデジタル化と公開が必要」ウエストン教授「アメリカはどの美術館がどのような作品を所蔵しているか検索しやすい。スカラシップでの利用を進めることで、調査・研究がなされ、知名度もあがり、価値も向上する」

●二階堂美術館先進事例調査研究研修



二階堂美術館学芸員「欧米の研究者からも問い合わせが多くある。国内外への日本文化発信に協働で取り組みたい」

参加者の感想 「デジタル化すればすべてが解決するのではなく、デジタル化したものをどう活用するが重要であることを再確認し、様々なアイデアを教授してもらえたことは大変有意義だった。」「デジタル化するための資金と人材の確保はボストン美術館でもハーバード美術館でも寄付に依存する組織は大変であることがわかった。今後企業に支援してもらえる美術館になる手法を考えたい」「個人情報保護法やコンプライアンスなど最新の法律知識を、学芸員は専門以外苦手とする傾向があるが常にブラッシュアップしていかなければいけないと思った」